

研究員が表彰されました！

当研究所の研究員が、その功績を認められ、表彰を受けました。

全国環境研協議会 関東甲信静支部 支部長表彰 受賞

環境リスク研究科 染矢 雅之 研究員

受賞に至った経緯や今後の抱負について（本人より）

当研究所において、分析化学・環境リスク分野の調査・研究に他の研究機関との連携も交えながら10年以上携わってきました。それら調査・研究の成果については、学会発表や論文発表を通じて積極的に外部発信すると共に、環境行政に資する成果については、国や都に情報提供を行ってまいりました。この度は、それらの成果を評価頂き、栄誉ある賞を賜りましたこと大変光栄に思っております。またこの場を借りて、研究遂行にご助力、ご支援頂いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも、環境行政をはじめ、より良い社会の実現に向けた取り組みに資する研究活動を行っていきたいと思っています。



CONTENTS

研究員が表彰されました！	①
学会参加報告 大気環境学会参加報告	②
学会参加報告 第36回廃棄物資源循環学会	③
活動報告 水生生物研修実施報告	③
活動報告 ドイツ連邦共和国における水素関連動向に関する現地調査	④

イベントにブース出展しました （府中環境まつり2025、武蔵村山環境フェスタ）	⑤
お知らせ 研究所ホームページ「リサーチマップ」へのリンクを追加しました！	⑤
お知らせ 東京都環境科学研究所 公開研究発表会を開催します（ハイブリット開催）	⑥



学会参加報告 大気環境学会参加報告

気候変動・環境エネルギー研究科 星 純也

2025年9月17日～19日に名古屋大学(愛知県名古屋市)で開催された「第66回大気環境学会年会」に参加しました。当研究所からは所長をはじめ15名が参加し、筆頭発表14件に加え、共同研究者による発表7件を行いました。

年会では、口頭発表やポスター発表のほか、特別集会や分科会講演など多彩なプログラムが実施されました。

口頭発表は17日～19日の主に午前中に行われ、当研究所からは有害化学物質、VOC、微小粒子、気候変動、自動車排出ガスについての発表を行い、各発表後には活発な質疑応答がありました。ポスター発表は17日の午後と18日の午前中にコアタイムが設定され、発表者がポスターの前で説明を行いました。当研究所からも微小粒子やVOCなど7件の発表がありました。本年会では複数の会場でポスターが掲示され、コアタイムには多くの参加者が議論や意見交換を行っていました。

17日午後には3件の特別集会が開催され、私は国立環境研究所と地方環境研究所の共同研究成果を報告・議論する集会に参加しました。当所と同じような地方環境研究所からも多数の成果報告があり、意義深い議論が交わされました。また、同日の夕方には分科会の講演会が開催されました。

大気環境学会には11の分科会・研究会があり、年会時には各分科会がテーマを設定して講演会を企画します。本年は8つの分科会企画があり、分科会が設定したテーマ毎に講演が行われました。一般発表と異なり、1人当たりの発表時間が30～40分と長く、じっくりと研究内容の紹介や議論ができる場となりました。当研究所からも鶴丸主任研究員と佐藤研究員が分科会で講演しました。

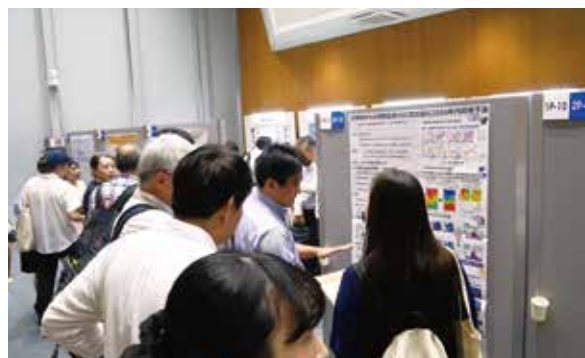
学会の年会は普段は顔を合わせない研究者が一堂に会する貴重な機会です。新たな人脈を広げるとともに、既知の研究者と共同研究の議論をする重要な場になっています。本年会でも休憩時間等では各所で今後の共同研究や外部資金研究申請の打合せが行われていました。

年会の最後のプログラムとして、19日の午後には一般の方も参加できる公開シンポジウムが開催されました。「気候変動と大気汚染」を大きなテーマとして、3時間にわたり様々な講演と活発な議論が行われました。最終日の午後にも関わらず多くの方が聴講しており、関心の高さが伺えました。

来年度の年会は埼玉県川越市で開催の予定です。隣県での開催でもあり、来年度も積極的に発表にエントリーしたいと思います。



発表の様子



ポスター発表の様子

第66回大気環境学会年会に参加してきました
(今村所長)





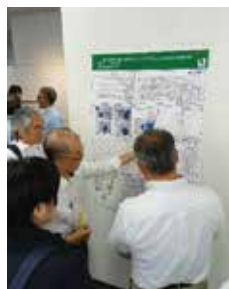
学会参加報告 第36回廃棄物資源循環学会

環境資源・生物多様性研究科 主任研究員 小泉 裕靖

2025年9月17日から19日にかけて、第36回廃棄物資源循環学会が名古屋大学で開催されました。本学会は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で行われ、総発表件数は289件にのぼりました。能登半島地震の資源循環をテーマにした特別プログラムや最新鋭の清掃工場の見学会なども行われ、会場には大学関係者や研究者をはじめ、民間企業や公的機関の技術者も集まり、活発な意見交換が行われました。

当研究所からは口頭発表とポスター発表の計4件を行いました。口頭発表では、まず「東京都における家庭からの食品廃棄物及び食品関連プラスチックの排出原単位について」をテーマに、東京23区の家系系の可燃ごみや資源を対象に食品廃棄物、食品関連プラスチック、使い捨てカトラリーなどの排出原単位を推計した結果を報告しました。続いて「最終処分場の法条例アセスにおける課題」と題し、環境影響評価条例で検討された最終処分場事案を対象に、設置等の計画に対する生活環境影響について市長、知事意見をとりまとめた報告を行いました。どちらも発表後に多くの質問や意見が寄せられ、活発な議論が行われました。

ポスター発表では、「熱分解(Py)GC/MSによるプラスチック及び添加物の成分分析」と「下水汚泥の実規模堆肥化処理における微生物群集構造の変遷」の2件を掲示しました。前者では、容器包装プラスチックやプラスチック製品、再生工場からのペレットなどについて素材成分と添加物を分析した結果を示しました。後者では、下水汚泥の堆肥化過程における微生物群集構造の変化について、分子生物学的手法を用いて解析した結果を報告しました。どちらのポスターも参加者から多くの質問やコメントが寄せられ、掲示時間を大幅に超える熱心な議論が行われました。



辰市研究員のポスター発表



西知多クリーンセンターのビオトープ

学会最終日には、西知多クリーンセンターの施設見学会が実施されました。この施設では、助燃剤を使用せず国内最高レベルの発電効率を誇る焼却・発電設備を見学し、ビオトープや環境学習スペースなど、資源循環拠点としての機能を体験しました。参加者は最新の技術や取り組みに触れ、熱心に議論を交わしながら学びを深めました。

今回の学会参加を通じて、廃棄物資源循環分野の最新の知見を得るとともに、研究者や技術者との交流を深める貴重な機会を得ることができました。今後も研究成果の発信に努め、社会課題の解決に向けて積極的に取り組んでまいります。



活動報告 水生生物研修実施報告

環境資源・生物多様性研究科 堀内 勇寿

当研究所の環境資源・生物多様性研究科では、年2回の水生生物調査に関する研修会を毎年開催しています。本研修は主に都市区町村の職員、小中学校の教員の方々を対象として、水生生物調査を行うためのリーダー育成研修となっています。研修は「講義」と「実習」の2日間で構成されています。ここでは、10月に開催された令和7年度第2回水生生物調査研修のうち、「実習」についてご報告いたします。

当日の研修会は、10月23日に八王子市の浅川に架かる鶴巻橋の直下付近で開催され、天候にも恵まれました。受講者は12名であり、1班3名に分かれての活動となりました。実習前半は河川の現況を把握するために、胴長を着衣して実際に河川に入りながら、水温、水深や流速等を計測・記述する調査方法を実践し、実習後半は採捕用の網を使用した水生生物の採集調査を実践しました。水生生物の種同定(見つけた生物がどのグループに属する種類かを明らかにすること)は、水質の判定基準にも用いるため重要なポイントです。水生生物の種同定は、研修の開始時に配布した「水生生物調査法」に関する資料(環境省水・大気環境局・国土交通省水管理・国土保全局編)を参考に、受講者自らが採集した水生生物と比較しながら調べていき、班内で相談しながら取り組む様子が印象的でした。また、水生生物を専門とする外部講師の先生にも指導をいただきながら、種同定を行いました。最後に、班ごとに採集した水生生物を報告し、水質判定のための全体の取りまとめを行いました。受講者の積極的な活動により、想定よりも多くの水生生物を採集することができ、充実した研修会となりました。今回の研修を通して習得した指導方法を各所属先にて実践いただき、水生生物調査の普及だけでなく、環境への興味関心を持っていただくための一助となれば幸いです。



水生生物研修の様子



水生生物採取調査の様子



活動報告 ドイツ連邦共和国における水素関連動向に関する現地調査

気候変動・環境エネルギー研究科 研究員 藤澤 有希



ドイツ現地調査訪問先(10件)

2025年10月20日から28日にかけて、当研究所4名と東京都立産業技術研究センター2名の計6名で、ドイツの水素分野の最新動向について現地調査を行いました。ドイツでは、脱炭素化の推進や原子力発電の廃止、エネルギー価格の高騰を背景に再生可能エネルギーの導入に力を入れています。さらに、グリーン水素の活用も進められており、政策や技術の面でも先進的な取組が見られます。ここでは調査で得られた主要な知見をご紹介します。

水素利用の特徴

ドイツでは、既存のニーズや技術に合わせて水素を活用する取組が進んでいます。石油化学大手のShellでは、従来石油精製工程で利用していたグレー水素の一部を、オンサイトで製造したグリーン水素に置き換え、徐々にグリーン水素へ移行する計画です。エネルギー供給会社のEnBW ではごみ焼却炉の排熱を利用した熱電併給(CHP)を行っており、2025年10月には天然ガスに30%まで水素混焼ができるガスタービン(124MW)を新たに運転開始しました。将来的には燃焼

部を交換することで100%水素燃焼にも対応できるようにし、2035年までに水素への燃料転換を目指しています。また、自治体が100%出資する公共サービス事業者のStadtwerke Stuttgartでは、自動車産業が盛んなバーデン＝ヴュルテンベルク(BW)州の地域特性を踏まえ、バスや大型貨物車などモビリティ分野での水素利用に特に力を入れています。いずれの企業も、コストを抑えながら利益も出せる持続可能な水素利用を重要視していました。

水素運搬とインフラ整備

現状、水素輸送はトレーラーが中心ですが、長距離・大容量輸送に対応するため、ドイツでは水素パイプライン網の整備が国家計画として進められています。ドイツ政府は2032年までに9,040kmの水素パイプラインの設置を目指していますが、このうち約60%は既存の天然ガスパイプラインの再利用、約40%は新たに建設する予定です。ガス供給事業者のNowega では、パイプラインの脆性評価や品質評価を行い、安全性確保に向けた検証が進められています。また、ドイツ全土で専門家や市民の水素インフラ整備に関する合意形成も行われており、送電線建設に比べて水素パイプライン建設には反対の声が少ないという話が印象的でした。

水素産業育成の仕組み

ノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW)州では、研究機関や企業が集中している利点を活かし、州助成策H2UBを通じて2021年の活動開始以降40社の水素関連スタートアップを支援しました。また、BW州では、中小企業向けに燃料電池スタックの量産化技術の研究や研修機会を提供するHyFabを運営し、新規参入を後押ししています。両州とも、水素産業の収益化には時間がかかるとしつつも、人材育成と専門的知見の共有を引き続き行うことで、今後の水素産業の発展に繋げることを期待しています。

終わりに

このようにドイツでは国と州が連携して水素社会の実現に向けた取組を数多く進めています。一方で、10月28日付のドイツ連邦会計検査院の報告では、水素需要の確保や長期的な財政負担の課題が指摘されています。現状はドイツに限らず世界全体が水素社会への移行期であり、多様な課題が生じることは自然な過程と考えられます。今後も国内外の動向を注視しつつ、東京都における水素の利活用に役立つ調査を進めてまいります。なお、いずれの視察先でも温かく歓迎していただき、多くの有益な情報を得ることができました。視察を実現するにあたりご協力いただいたドイツの関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今回の調査で得られた成果は都内での水素の社会実装に向けた検討に活かしていきたいと思います。



写真提供: Shell

Shellの水素製造プラント(後方)



写真提供: BW international

Stadtwerke Stuttgartの水素プロジェクトの説明を受ける様子



EnBWの水素対応CHPプラント(後方)

イベントにブース出展しました

府中環境まつり2025、武蔵村山環境フェスタ

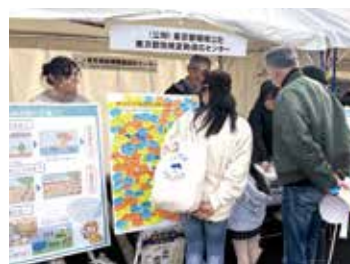
東京都気候変動適応センター

東京都気候変動適応センターは、10月5日(日曜日)に府中駅けやき並木通りで行われた「府中環境まつり2025」に、11月8日(土曜日)及び9日(日曜日)に、イオンモールむさし村山臨時駐車場で村山デエダラまつりと同時開催された環境フェスタにブース出展しました。今回は「オリジナル防災ボトルを作ろう!」というテーマで、自分だったら防災ボトルに何を入れるのかをふせんに書いて、貼ってもらいました。常備薬、現金、甘いもの(あめ、ようかん等)という回答が多く寄せられました。また、参加していただいた方に自分の住んでいる自治体のハザードマップを見たことがあるか伺ったところ、「存在は知っているが見たことがない」「そもそもハザードマップが作られていることを知らない」という方が多くいらっしゃいました。自宅や学校のある場所と一緒にチェックすることで、ハザードマップへの認識も広めることができました。

両イベントとも、幅広い世代のみなさまにご参加いただき、盛況に終わることができました。たくさんのご来場、ありがとうございました。防災ボトルは100円均一で売っているウォーターボトル等で簡単に作ることができます。マイ防災ボトルを作って普段から持ち歩くのがおすすめです。甘いものはローリングストック方式で定期的に入れ替えると、賞味期限切れ等がなく安心です。ぜひお試しください。



「府中環境まつり2025」の様子



「武蔵村山環境フェスタ」の様子

お知らせ

研究所ホームページ「リサーチマップ」へのリンクを追加しました!

研究調整課 広報担当

このたび、当研究所のホームページに新たに「リサーチマップ」*1へのリンクを追加しました。研究所HPの「組織・研究分野」ページ内の「研究科紹介・研究員一覧」をクリックすると、各研究員のリサーチマップへアクセスできるようになります。これにより、研究員のプロフィールや研究内容、論文、研究キーワード、経歴など、研究活動に関する詳細な情報を簡単にご覧いただけます。また、気になる研究分野やキーワードで検索することで、特定の研究や研究員を見つけやすくなっています。

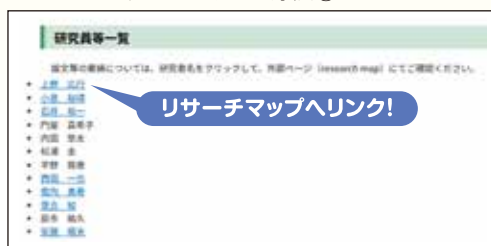
当研究所では、研究員一人ひとりの活動を広く共有し、研究に関心を持つ多くの方々との新しいつながりを創出していきたいと考えています。興味のある研究分野や研究者の情報を探すツールとして、ぜひご活用ください。これを機に、当研究所の研究活動の魅力や新たな発見に触れていただければ幸いです。

※1: リサーチマップ(researchmap)は、研究者が論文や講演、社会貢献活動などの業績を発信・管理できるデータベース型研究者総覧です。国内外の研究者が登録するプラットフォームとして、研究者間の連携や新たなコラボレーションの場としても活用されています。

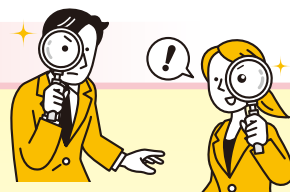
リサーチマップへのアクセス方法①



リサーチマップへのアクセス方法②



「組織・研究分野」ページ: <https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/profile/organization>



東京都環境科学研究所

公開研究発表会

ハイブリット開催
を開催します

東京都環境科学研究所は、都民の皆様や企業・自治体職員の方々に日頃の調査・研究の成果を広く知っていただくため、毎年、公開研究発表会を開催しています。

今年度は新宿NSビル NSスカイカンファレンスでの現地開催に加え、オンラインでも同時配信するハイブリット開催を予定しております。

令和7年度 東京都環境科学研究所 公開研究発表会

日時 令和8年 **1月23日(金)**
午後1時30分から午後4時40分(午後1時開場)

場所 **新宿NSビル**
NSスカイカンファレンス ルーム3・4
(東京都新宿区西新宿2丁目4新宿NSビル30階)
※同時オンライン配信も実施予定

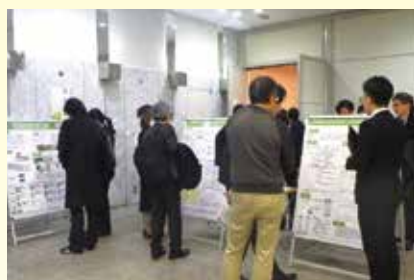
定員 【会場】 **70名** 【オンライン】 **400名**

内容 外部講師を招いた特別講演のほか、研究員による4件の研究発表を行います。
また、午後1時から午後1時30分まで、午後4時40分から午後5時10分までは会場内にてポスター発表を行います。

※開催方式や内容は変更となる可能性があります。
※詳細やお申込みは当研究所のホームページにてご案内いたします。

<https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>

令和6年度の公開研究発表会の様子



「R6公開研究発表会 ポスター発表」の様子



「R6公開研究発表会」の様子

事前申込制

先着順



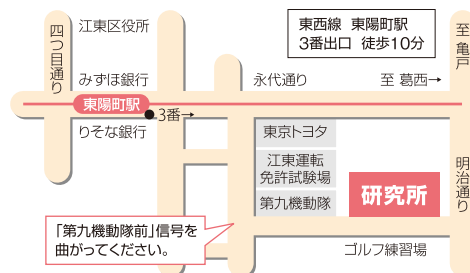
●記事へのご意見がございましたら下記へお寄せください。

【発行】東京都環境局総務部環境政策課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
TEL 03 (5388) 3426(ダイヤルイン)

【編集】公益財団法人 東京都環境公社 **東京都環境科学研究所**
〒136-0075 東京都江東区新砂一丁目7番5号
TEL 03 (3699) 1333 FAX 03 (3699) 1345
2025年12月発行
メールアドレス／kanken@tokyokankyo.jp

登録番号 第(7)42号
環境資料第37043号

ホームページ <https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>



「第九機動隊前」信号を
曲がってください。

リサイクル適性(A)

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。